翠巒
Mini Press
第176号
2022/7/20

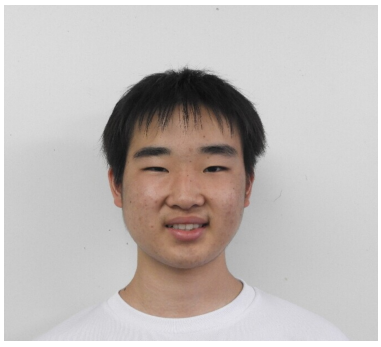
編集・発行
高崎高校新聞部

新たなる志を胸に

第123期生徒会　発足

6月13日に高崎高校全日制普通科の生徒会長選挙が行なわれた。今年は、元生徒会総務であった加藤遥大くん（2の7）が立候補した。去年に続き立候補者が一人であったため、信任投票となった。加藤くんは、658票を獲得し、生徒会長に当選した。123期生徒会は、生徒会長の加藤くんをはじめとして、副会長の原田吉隆くん（2の5）と藤井幸佑くん（2の7）、会計担当の青山駿也くん（2の5）と今枝柊太くん（2の5）を中心に運営されている。その他にも調整役、式典準備、環境、外交・下駄箱、部活動企画、デジタル、交通の7個の役職も設けられている。

新生徒会長　加藤くん



生徒会長選挙で生徒会長になった加藤くんにインタビューをした。

まず、なぜ生徒会長になったのかを尋ねると、「生徒会総務に入った当初は生徒会長になろうとは思わなかった。しかし、同級生や先輩たちとともに仕事をするにつれて、徐々に仕事の面白みをより深く味わいたいと思うようになった。また、この学校の伝統を守りつつ改革をしてみたいと考えるようになった。実際に自分が立候補するという話が出るまで実感が湧かなかったが、正式に立候補が決まると面白いほど目標が決まっていった」と語った。

また、先代から学んだことや自分たちの代で生かしていきたいことに関して、「先代の先輩からは多くのことを学んだ。その中で最も印象的だったのは行動の素早さだ。言われたらすぐにやる。何も言われてなくても機転を利かせて迅速に対応する。自分たちの代でも、先代に続いて先生方やその他の機関との連携を上手にとり、素早く仕事をこなしていきたい」と語った。

さらに、「第71回翠巒祭実行委員長の花田智紀くん（2の1）と連携を取り合って、来場していただいた観客全員がすべてのステージに集まって楽しんでいただけるように工夫したい。定期戦では前橋高校の生徒会長とTシャツ交換するなどして、楽しい思い出ができるとうれしい」と次の翠巒祭・定期戦への抱負を語った。

最後に、「伝統的に生徒会が運営してきた行事をしっかり成功させて、安定に努めたい。そして校内環境の整備や、情報伝達の観点で見られる課題などを解決できるように取り組んでいきたい。皆さんの期待を裏切らない着実な生徒会運営を心掛けていきたい」と生徒会長としての意気込みを語った。（竹上）

生徒会方針

今期の生徒会の活動方針について、会長の加藤くんにインタビューした。今回の取材に関して、「去年から生徒会の活動に参加し、校内競技会の業務を終えたところ、情報伝達がうまく広がらないと思った。そのため、解決策としてクラスルームを上手に活用していく方法を考えたい。他には、校内環境を改善したい。衛生面はもちろんのこと、物がなくなるなどの問題も減らしていく。例えば、『トイレが臭い』などの声を多く聞くため、トイレに炭などの消臭剤を置くことを検討している。また、理科棟にある下駄箱を管理することも考えている」と口にした。

最後に生徒会からのお願いとして、「理科棟は多くの先生方や生徒が通り、中学生がオープンスクールで通る場所である。そのため、理科棟は清潔であるべきだと思う。理科棟のカン・ペットボトルのごみ箱にコンビニのごみを捨てないことや、部室はきれいに使い、備品を大切に使うことを意識して生活してもらいたい。そして、生徒会のクラスルームをもっと見てもらえるとうれしい」と語った。（竹上）

第123期生徒会　中心メンバー

NOTE

突然だが、私は、ゲーム依存者だ。そんな私がこの場を借りて伝えたいのは、ゲームの魅力である▼皆さんは、真・女神転生（以下、メガテン）というゲームを御存知だろうか▼メガテンは日常的に「悪魔」という異形が出現した世界で生き抜く人々の物語だ。主人公たちは悪魔に振り回されながらも世界を左右する決断をしていく▼メガテンには三種のルートが存在する。一つ目は、実力至上主義のCHAOSルートである。このルートでは、力こそが全てであり、争いが絶えない。強者は尊ばれるが、弱者には何の権限も与えられない。二つ目は、平等が約束されるLAWルートである。ここでいう平等とは、絶対的存在の神の下のものであり、人々の思想統制が行なわれる。三つ目はNEUTRALルートである。これは前出のどのルートにも属さない。つまり、実力主義にも、主体性を奪われた平等にも偏らない、「中途半端」で「割り切れない」ルートなのだ▼私は、この「中途半端」で、「割り切れない」ことが人間の魅力であり、強さだと思う。私たちは生きている限り、様々な問題に直面し続ける。その中には答えの出ないものや、出した答えに割り切れない気持ちになるものもあるだろう。確かに実力至上主義や絶対的平等など、ある立場に振り切るのは楽だ。しかし、迷い悩み続け、自分なりの答えを出すことは人を強くし、魅力的にする▼ゲームから学べることは多い。皆さんも夏季休業中に、ゲームに興じてはどうだろうか。（青山）

高高を盛り上げたい

應援部主将　清水くん

高高には、高高生にしか作りえない誇るべき部活動がたくさんある。應援部もその一つであり、行事や朝礼における校歌斉唱などを中心に、様々な場面で活躍をしている。そこで今回は、新しく應援部の主将となった清水惺也くん（2の2）に話を聞いた。

まず、これまでの活動について、「最初は同学年の部員が自分一人で、少し寂しく感じることもあったが、應援部員としての誇りを持って、力の限り応援することを心掛けていた。それから、今の副将が入部し、大変なこともあるだろうが、この2人でどんな困難も乗り越えていこうと必死に頑張った」と振り返った。

練習に励む　清水くん

次に、これからの目標に関して、「3年生が引退して、自分が主将となり、應援部の中心となった。目標は、この学校全体を応援で引っ張っていくのにふさわしい漢となることだ」と語った。

また、應援部主将として、「應援部の主将となり、自分が頼られる立場、引っ張っていく立場に変わったことで、自分に務まるのかと不安に思う時もある。しかし、自分は第漆拾壱代應援部主将として誇りを持ち、堂々とこの学校の最前線に立ちたいと思う」と決意を口にした。

最後に、応援そのものについて、「我々がたくさん練習をして、応援のレベルを上げるのも必要だと思うが、やはり高高生を応援するには、高高生全員の協力が不可欠であると思っている。ぜひ高高の皆さんと一緒に應援部を、応援を、そしてこの高高を盛り上げていきたい」と締めくくった。（秋山）

紙面割　表・秋山　裏・畑